

# 大谷教師塾

## 教員養成ナビゲーター

大谷大学  
教職支援センター

第102号

2012. 11. 26

### 希望は与えられるものでなく、 自分で作り出すものである

副センター長 関口 敏美

『大谷教師塾』第101号によれば、今年度の卒業予定者のうち、一次試験の合格者数が小学校22名、中学校1名、高等学校1名と、昨年までに比べて、現役での合格者数が増加しています。これまで一次試験を突破することのできた者が数名だった時代に比べると、今年度の4年生のみなさんは、直前講習などにも積極的に参加していたし、個人的に教職教養の勉強を地道に続けてきた人もいます、ずいぶんと健闘していると思います。

9月下旬から10月下旬にかけて、教員採用選考試験の二次試験の発表がありました。今年度現役で二次試験に合格したのは、小学校6名です。昨年度までと比べると、よく頑張ったと思いますが、やはり現役の学生にとっては、二次試験のハードルは高かったといわざるをえません。二次試験は、模擬授業と集団面接のところが多いようですが、合格者の割合からみても、講師経験の方が有利であるようです。

一次試験での健闘ぶりからすると、現実には非常に厳しいものだと思いますが、惜しくも二次試験で落ちた人は、落胆することなく、常勤講師としての経験を積みながら、合格をめざして頑張ってもらいたいものです。なぜなら、現役で合格する人よりも講師経験を積んでから合格するの方がずっと多いからです。

玄田有史(げんだ ゆうじ)さんの『希望のつくり方』(岩波新書2010年発行)によれば、希望は与えられるものではなく、自分で作り出すものであるとあります。教職をめざすみなさんにとっては、教員になるために教員採用選考試験に合格することが第一関門となります。当面の希望を教員採用選考試験突破と位置づけるならば、しんどいこともあるかもしれませんが、教

員になるために、その時自分ができる最善を尽くす必要があります。

玄田さんはこうも言います。希望は、「気持ち」「何か」「実現」「行動」の四つの柱から成り立っている、希望が見つからない時は、四つの柱の何が欠けているのかを探せ、と。この図式にあてはめて考えてみると、みなさんの立場は、教員になりたいという熱い思いはあるが、夢を実現するために具体的に何をしたらいいのかよくわからないという状況かもしれません。教職をめざす自分は、いったい何をしたらいいのか…と。

そんなみなさんに大きなヒントになるのは、先輩たちの体験を聴いて自分が行動を起こす際にモデルとして参考にすることです。今年度も11月23日(金)18時より、教職実践報告会があります。教職実践報告会は、実際に教職にある先輩を講師に招いて体験談をうかがうものですが、2005年度から毎年開催されており、今年で8回目となります。

常勤講師をしながら教員採用選考試験を突破した先輩がほとんどなので、これから教職に向けて頑張ってみようとする1年生・2年生にも、来年度教員採用選考試験を控えた3年生にも、常勤講師の傍ら採用選考試験をめざそうとする4年生にも、有意義なお話を聞くことができます。先輩方は、教職に向けて夢を実現するためにどのように活動したのか、具体的に説明していただけます。先輩の体験から学ぶことも多いでしょうし、実際に質問をしてアドバイスをいただくこともできるでしょう。「百聞は一見にしかず」といいます。ぜひ、先輩の体験談を聞いて、自分が頑張るためのきっかけを見つけてください。



#### 目次:

教師採用試験 を振り返って		2
児童が 進行役の 授業に驚く		2
意を決し、 イギリス留学		3
教育現場に 必要な コミュニケー ションカ		3
読書案内 「子どもと 哲学を」		4

鴨川が冬になるとユリカモメが帰ってくる。古歌の「名にし負わば いざ言問はむ 都鳥 わが思ふ人は ありやなしやと」を思い出す。ろずさむと古人の情が心に沁みる。「舟こぞりて泣きにけり」の思いを忘れてはなるまい。  
(西寺 正)



### 「その気」になって、学習を積み上げよう!

教職支援センター 教職アドバイザー 西寺 正

前回、『積小為大』(二宮金次郎)という言葉を紹介された。馬場信行先生がこの欄で紹介されました。「小さなことの積み上げこそが(教員への夢の実現に)大きな力を生み出す」という意味でしたね。どの職に就くにも「当たり前」と言えば当たり前ですが。

さて、皆さんは、今「教職に就く」という夢の実現にどれだけ本気で「その気」になっているでしょうか? 観点別学習状況の評価の考

方を援用すれば、「教職に就く」と「その気」になった学生の「関心・意欲」は必ず、学習「態度」の変化となって現れます。

その人の生活が変わるので、皆さんが本センターを活用し「理解力や表現力」を育てて教職への道を切り拓いてほしいと願っています。





改善点は  
経験の積み上げ  
と  
幅広い知識

## 採用選考試験を振り返って

大学院修士課程 国際文化専攻 第2学年 脇坂 高志(わきざか たかし)

私は大谷大学に入学する目的として、「真宗大谷派の資格取得」と「教員免許の取得」がありました。しかし、入学後に開催された説明会の時点で両立の難しさを感じ、教員免許の取得をあきらめ、真宗大谷派の資格のみの取得を目指しました。

3年生の後期になり、就職説明会に参加し始めた時に、一度はあきらめた教師の道への思いが自分の中で大きなものになっていることに気づきました。そして後悔にないためには、教職の道に真剣に向かい合ってみようと考えようになりました。そこで、私は大学院に進学し、教職の授業を受け教師の道を歩むことにしました。

修士2年生となった今年、地元・滋賀県の教員採用選考試験を受け、2次試験で不合格になりました。その過程を振り返ると自分なりの反省点や改善点が見えてきました。まずは、「経験不足」です。これは集団面接や個人面接、模擬授業の際に痛感させられました。

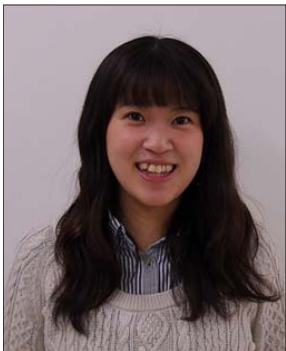
常勤講師などで現場の経験をしている人には私にはない落ち着きや説得力がありました。

次に「幅広い知識」です。一般教養、教職教養、専門科目などに的確に対応するためには普段から確実な情報を整理することが大切であり特に、学習指導要領の大きな流れや受験地の特色ある教育施策の把握は必須だと感じました。

実際、試験当日には出題された問題を見て、「勘(あてずっぽ)」で答えたことがあり、準備不足な点が多かったと反省しています。

しかし、採用選考試験に挑戦する過程で自分なりに成長したと思う点も多々ありました。それは、地元での教育実習で指導教官の下、生徒たちと多くのことを体験したことです。選考試験の個人面接ではこの実習経験をもとに質問に答えることができました。

また、教職支援センターの直前講習で得たことに基づいて意見を述べることも出来ました。今後も、教員として求められる幅広い知識や能力を得るため努力を積み重ねていきたいと思っています。



学ぶ教師  
挑戦する教師

## 児童が進行役の授業に驚く

—学校の未来形「東山開晴館」—  
仏教学科 第2学年 山岡 広果(やまおか ひろか)

私はアドバイザーの先生に勧められて、東山開晴館で行われた研究発表会に参加しました。東山開晴館は小中一貫の施設一体型の学校で、開校して1年7か月のとても美しい学校でした。これからの学校の姿を見る思いで校舎に入りました。

この研究発表会は公開授業・全体会・分科会の三部構成で行われました。全国から大学関係者、学校の教諭、「京都教師塾」の受講生など、教育にかかわる様々な人々が参加されていました。その参加者の多さにも圧倒されました。

小学校では各学年・各教科の研究授業が30以上行われました。どのクラスも子どもたちが司会をし、授業を進める形式がとられていました。私はこの学習方法に驚くとともに、なぜ子どもたちに司会をさせているのか疑問をもちました。その後の全体会では学校の現状や子どもの課題について説明があり、その中で言語活動の充実を図るための学校全体の取組として、子どもたちに授業を進める司会役をさせているということがわかりました。分科会でも提案者・授業者が授業のねらいや工夫について詳しく説明され、質疑応答や熱心な協議の後、指導主事の先生から丁寧な講評がありました。

私はこの研究発表会に参加して、児童の主体的な学びを進め言語活動の充実のために、現職の

先生方自身も学び続けておられる姿を目の当たりにしました。私も教師になれば積極的に学び常に新しいことに挑戦する姿勢を忘れないようにしたいと思いました。そして学生である今もこのような学ぶ機会があれば進んで参加していくつもりです。

みなさんも機会をみつけて研究発表会等にぜひ参加してみてください。



東山開晴館の外観





## 意を決し、イギリス留学！

教育・心理学科 第3学年 池浦 侃太郎(いけうら かんたろう)



大学生活で「何か一つをやりきった！」と思える体験をしたいと思い2011年2月に意を決し、一年間のイギリス留学に旅立ちました。

高校までサッカーの上達が目標だった私は大学入学時には、「ただ時間が過ぎていく」という物足りなさを感じていました。その克服に将来、教育に関わる仕事に就くにしても「英語でのコミュニケーション」は必須だとの思い、英国のカーディフに留学を決めたのです。

現地の大学では、意識的に日本語を話す仲間を避け、ドイツやブラジル、アジア諸国からの留学生と上の写真のように積極的に付き合うように心掛けました。そして、異文化理解に戸惑いながらも英語力の伸びに挑戦し有意義な留学生生活をエンジョイしました。

夏の長期の休みには、ヨーロッパ各地を巡る気儘な旅を気の合う仲間と経験しました。今では大切な思い出の一つとなっています。

また、カーディフならではの交遊の場の体験

として「パブで英語」を実践しました。パブは昼からも人で賑わう「立ち飲み風の居酒屋」で産業革命以来、炭鉱の町として栄えたなごりで市民の交流の場として街中に多くありました。

パブへ行けば少しのビールで現地の人々や留学の仲間との会話も弾み、私の文化理解も深まり、また、英語力も磨かれたと思います。

当初は相手の話が理解できなかったり、自分の言いたいことが表現できずストレスの溜まる時期もありましたが、大学での授業やパブでの体験も役立ち、一年間無事に過ぎて復学を果たしました。

帰国後、教育への貢献を目指す私の意識が高まり、「小学校外国語活動」の受講態度も積極的にになりました。

英国留学の目標は、漠然と教育の世界などで通用する「語学力」の獲得(ゴール)でしたが、今では「英語はコミュニケーションの道具」として、英語の語学力不足で困っている人を助けたり、さらに留学で得た能力を教育などの仕事に生かしたりするといった新たな目標ができました。

これからは英国留学で得た知見を深め、「英語の表現力」を磨き、英語を活用し自分をさらに生かす教育分野は何か?と自問を繰り返し答えを探し求めたいと思います。



英語力の獲得が  
ゴールではない

英語を使って何が  
できるかが問題だ。



## 教育現場に必要なコミュニケーション力

国際文化学科 第2学年 中曽根 竜也(なかそね たつや)

先日、私は京都教師塾の教育実践特別公開講座を受け、京都市教育委員会教育企画監荒瀬克己先生の講演を聴いていくつかのメッセージを受け取りました。

その中で一番私の心に響いた内容は、コミュニケーション力についてのお話でした。荒瀬先生は「教育は個々の能力よりも組織全体の能力を引き上げることが大切であり、そのためには教師同士による意見交換や交流が重要だ」と話されました。

先日、私が中学校のボランティアで文化祭準備を手伝った際、展示作品の組み立て作業で問題が生じました。そこで、ある先生に意見を求められ、私は自身のアイデアを申し上げました。すると、その先生は他の先生と相談した結果、私の提

案を取り上げて下さいました。そのとき「どうして私のような知識も経験もない学生のアイデアを採用して下さったのだろうか…」と、とても不思議に思いました。



この度、荒瀬先生のお話をきいて私の疑問は解けました。荒瀬先生は以前、堀川高等学校の校長をされていました。堀川高等学校では、教師は沢山の資料を使い、莫大な量の知識を生徒に教えていましたが、なかなか生徒の学力向上に結び付けることができませんでした。そこで、荒瀬校長は教師同士による実践交流や意見交換の場を設けました。教師たちは教科書だけに囚われることなく、教科指導と日常生活を関連づけながら生徒に考えさせていく授業スタイルを進めました。これによって、生徒たちの内発的動機を引き出し結果的に学力を上げることができました。

この度、私は荒瀬先生のお話から、本当に大きな知的刺激を受けました。問題に遭遇した際、己の経験だけに頼らず、学び合う精神をもって、分け隔てなく周りとは交流をすることが問題解決の近道になるということでした。私もコミュニケーションの範囲を一層広げ、積極的に意見交換を図る中で、自らを高めていこうと考えています。

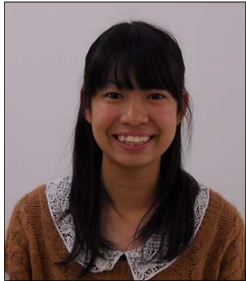


問題解決の近道は

学び合う精神  
と  
分け隔てない交流。

■ 読書案内 哲学科 第2学年 宮田 茜(みやた あかね)

## 『子どもと哲学を』 — 問いから希望へ — 森田伸子著 勁草書房



「パパとママが死んじゃって なおこちゃんが おばあちゃんになって 死んじゃったら だれが おはかに いてくれるの？」  
小さな子どもにこのような質問をされたらあなたは どう答えますか？この問いは、まもなく五歳になろうとする女の子のものです。この世界に自分一人になってしまったら、自分が死ぬことをいったい誰が看取ってくれるのだろう。そんな、子どもならではの「自己存在の不思議」にせまる問いです。

私自身、野外活動のボランティアリーダーとして小学生と関わっていると、思いがけない「なぜ？」をぶつけられる時があります。答えに困ると同時に時に私が思うことは「どうして、子どもたちにはこのようなことが疑問になるのか」ということと「私も確かに一度は同じようなことを考えたことがあるはずなのに、なぜ私はそれを問わなくなったのか」という二つのことです。

この私の疑問に答えてくれるかのように著者は言います。子どもの問いは世界を初めて新しい目で見る者の「驚き」から生まれるものであるが、大人の問いは世界の真ただ中で道に迷いながら発せられる疑いと不安の問いであり、どうしても答えを求める問いになってしまうと。もしかしたら子どもは「なぜ？」と問いつつ、答えを求めているのではなく、果てることのない「不思議」を共有したいだけなのかもしれません。

本書では、育った環境も年齢も異なる子どもたちの「生きる不思議」を問う姿が描かれています。教育に関する「なぜ？」から哲学的問いまで内容は実に様々です。

哲学科で学びながら、哲学の難解さに頭を悩ますことはしばしばです。しかし、誰でも常に哲学者になりうるし、私たちは小さい時から今もなおずっと哲学的問いと共にあるのだと感じます。

私が小さい頃から夢にみていた「教師」という仕事はもしかしたら、小さな哲学者との対話なのではないかと考えさせられる一冊です。



合唱コンクールでの優勝、その感動を語る重久先生

## 後悔よりチャレンジ

教育実習事前指導 11月1日(木)

講師 京都市立桂川中学校教諭 重久麻実子

本学卒業生で採用3年目、現職で活躍されている重久先生から教育実習で心掛けたいことなどについてお話をいただいた。

### ■ 教育実習で心掛けたいこと

- ① 生徒との人間関係を築く
  - ・生徒の名前を覚える(事前に写真と名簿を照合)
  - ・積極的に生徒とかかわる(休憩・掃除・部活動など)
- ② 授業準備を怠らない
  - ・教材研究に時間をかける
  - ・生徒理解に立った周到な授業準備を行う
  - ・指導教官との綿密な打合せを行う(積極的に聴く)

### ■ 在学中に取り組み現在役立っていること

- ・1年生から学校ボランティア(小学校・中学校)
- ・2年生での「教師塾」参加
- ・3年生でのインターンシップ
- ・4年生での「総合育成支援員」や研究発表会参加

### その他として・・・

- ・大谷大学の挨拶も含めた礼儀・服装などについての厳しい指導(当初は「ここまで・・・」と感じた)
- ・教職支援センターでの様々なアドバイス

印象に残った言葉は「**やらずに後悔しない、できることはやりきる**」。教師としての情熱や生徒へのおもいが伝わってくる内容であった。(細谷)

## これからの予定

- 11月30日(金) 16:20~17:50  
京都市講師登録説明会・教員採用選考試験説明会
  - 12月6日(木) 16:20~17:50  
滋賀県講師登録説明会・教員採用選考試験説明会
  - 12月13日(木) 16:20~17:50  
高槻市及び大阪府教志熟説明会・講師登録説明会
- 対象学年：3・4年生(1・2年生も参加可能) スーツ着用のこと

### ■ 大谷大学教員免許状更新講習(選択領域)

12月16日(日) 歴史教育の可能性 定員40名  
於 彦根城博物館講堂

12月23日(日) 日本文学史における「うた」の展開 定員40名  
於 長浜ふれあいホール

※ エントリーは申込受付 開始 11月16日(金) 9:00  
締切 12月8日(金) 16:00  
教職支援センター075-411-8476

## 教育・心理学科 大運動会開催



10月20日(土)に大谷大学体育館を会場に教育・心理学科の大運動会が開催されました。実行委員も学生が務め、第1・2学年の学生がゼミ対抗でクラス対抗リレーをはじめ、大成功を収めました。

今回で第3回目を迎えた大運動会ですが、毎年活気と笑顔があふれる大会となっています。